

昭和区社会福祉協議会第2次地域福祉活動計画  
第5回策定委員会

日 時 平成21年3月9日(月) 9:30~11:30  
場 所 昭和区在宅サービスセンター 2階研修室  
出席者 14名 オブザーバー出席1名

<報告事項>

・2/27(金) 公開パブリックコメント(兼地域福祉推進研修会)について [資料1]

2/27の公開パブリックコメントの概要と、アンケート結果をお伝えしました。

~シンポジストより、報告をしてくださったのコメント~

助け合いのことを話していて、自分が携わっている防災のことにも直結してくることを改めて実感した。

一般区民をもっと集めて周知をするとよい。

推進協の中では様々なジャンルで若い人に声をかけていこうと思う。急に入ってきた人をスムーズに受け入れる環境はまだできてはいないが、これからは受け入れていくことが大事。

早速、推進協会長会を理事会前にひらき、意思統一をしていきたい。

<審議事項>

・計画(案)について [資料2]

前回策定委員会以降の変更箇所についてご説明しました。

課題の整理のプロセス 加筆 P4

「本計画がめざすもの」について 訂正 P12

- ・本計画の理念と混同しないよう、タイトルを「本計画が重視すること」に変更
- ・2次計画のところのみ完結に表現した方が良いとのご意見がありましたが、前回との比較を入れなければ伝えたいことが伝わりにくいため、レイアウトで2次計画の部分を強調するにとどまりました。

重点項目1 P16

- ・関係図に老人クラブ(高年クラブ)、女性会を記入

重点項目3 P18

- ・重点ポイントの表記訂正

#### 重点項目 4 P 1 9

- ・「充実・発展」等の表記訂正
- ・推進協の方針をまとめることを明記

#### 重点項目 6 P 2 1

- ・ニーズキャッチについて補足

#### 昭和区社協の認知度向上 P 6 6

- ・社協の機能のPRについて補足

その他、全体を通して文章表現や語句の整理をしましたが、数十か所にわたるため説明を省略しました。

#### 議論されたこと

##### ダイジェスト版について

完結にビジュアル的に訴えるものがよい。

作業部会のメンバーなどにもアイディアを聞く場があってもよいのでは。

理事会で決定後、21年度に事務局が主となり、意見をいただきながら作成予定。

##### 「障害」「障がい」の表記について

・全国的な傾向としては、当事者団体からは逆にひらがなに代えることだけで人権意識が高まったかのように言われるのはおかしいということで、反対の声も多い。大切なのはその地域ごとでしっかり話し合っ決めていくこと。

- ・名古屋市社協より16区統一で、法令等で固有名詞になっているもの以外は「障がい」の表記を使うことが示されたため、今回はそれに従う。

##### 進行管理について

プロジェクトチームというのは作業部会ワーキンググループそのものか。

21年度にはいったんしきり直して、ワーキンググループメンバーを中心に、新たなメンバーを拡大しながら進めていく。

たまり場プロジェクトチームは2月18日に、プロジェクトチームとしての再スタートをきった。

##### 21年度から始める事業についてスタートはどう切るのか

21年度の事業計画に組み込んである。新たにスタートする事業だけではなく既存事業も入っている。3月の理事会・評議員会で審議し、4月からスタートする予定。

活動計画と単年度事業に整合性をもたせる。

～最後に、策定に関わってコメントをいただきました～

どの会議も顔ぶれが一緒になってきているので、もうちょっと違うメンバーも入れながら拡げていってほしい。

学区によって違いもあるが、この冊子を見ると自分の学区に照らし合わせて考える参考になるわかりやすいものになったと思う。

子ども会のリーダー育成を20年やってきたが、計画の中の学生のところを見て、もっと力をいれようと思った。

作業部会と事務局が大変労力をかけて作ってきたことに敬意を表す。  
事業計画とリンクしているため進行管理もやりやすく、わかりやすい。

状況が変わってきたら、その都度あらためて集まって会議をしながら考えていくといいと思う。

5年先まで見通すのはなかなか難しかった。まだまだとらえきれていない問題もあると思うので、新しいニーズにも柔軟に対応してほしい。

この計画を住民の目線から発信し、住民相互が協力することで住みやすいまちづくりにつながると思う。一部の区民だけでなく、一人でも多くの区民に知らせ、参加してもらえようプロジェクトチームもやっていきたいと話しているところ。

昭和区の中で何人の退職者が出て、そのうち何人がこの計画に関わってくれるか。多くの人材がこの計画に関わらずにいることはもったいない。

地域ではまだまだ困っている障害者も多い。この計画が、そうしたニーズのある人の助けになればと思う。自分も障害という言葉にはこだわっていない。ひらがなにすることで、ポーズにされたくない。言葉よりも困っている人のことを本当に考えるのが先。

計画策定に関わるまでは、地域のことを全然知らなかったことに気づいた。これからいかに実行していくかが重要。

策定に関わって、福祉は「与えられるもの」から「作り出すもの」だと分かった。大変勉強になった。

一年間かけて作ったものをいかに地域が使っていくか。まずは身近な自分の学区から進めていきたい。この計画はその意味でも身近で活用できる参考書になったと思う。